富山県美術館-TAD
Press Release

生活環境文化部　富山県美術館
担当：美術品収蔵について：八木、渡辺　広報：川浦
電話：076-431-2711

令和 5 年 3 月 24 日

# 富山県美術館令和 5 年度展覧会スケジュールおよび令和 4 年度新収蔵美術品について

富山県美術館にて、令和 5 年度に開催される展覧会のスケジュールをご案内します。
また、新たに取得した収蔵美術品をお知らせします。

## 1. 令和 5 年度　展覧会スケジュール

富山県美術館では、来る令和 5 年度の展覧会を別紙のスケジュールで開催します。

展覧会年間スケジュール（パンフレット）は、県内の主な文化施設や教育機関に配布します。また、富山県美術館ホームページにも同様の内容を掲載します。

資料 1.　展覧会年間スケジュール（パンフレット）（PDF：4,796KB）（別ウィンドウで開きます）

## 2. 令和 4 年度取得の新収蔵美術作品

令和 4 年度は、美術品の購入と受贈により 13 件の作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。

資料 2. 令和 4 年度取得美術品について（詳細・図版）（PDF：1,040KB）（別ウィンドウで開きます）

MAKE TOYAMA STYLE
BEYOND CORONA, WITH US

富山県美術館
アート＆デザイン

## 開館時間・休館日

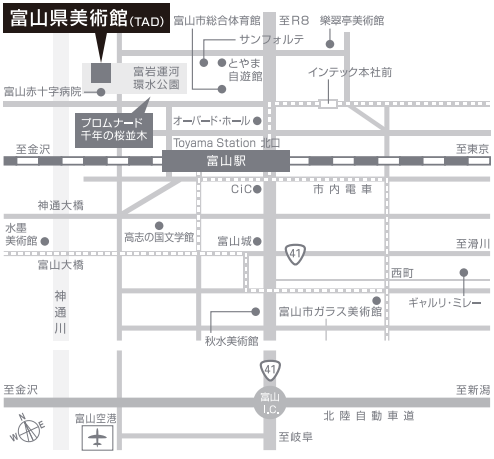
| | 利用時間 | 休館日 | 料金 |
|---|---|---|---|
| 美術館 | 9:30 - 18:00 | ・毎週水曜日<br>（祝日除く）<br>・祝日の翌日<br>・年末年始 | ・コレクション展：一般300円(240円)<br>※（ ）内は20人以上の団体料金<br>・企画展：展覧会により異なります。<br>・企画展観覧料でコレクション展もご覧いただけます。 |
| オノマトペの屋上 | 8:00 - 22:00 | 12月1日～3月15日 | |
| 駐車場 | 8:00 - 22:30 | | 最初の1時間330円<br>以降30分毎に110円加算。<br>※美術館利用の方、2時間無料<br>（事前精算機をご利用ください。） |

※メンテナンスや展示替え作業等のため臨時休館する場合があります。
※季節やイベント等に応じて、臨時開館や延長開館する場合があります。

・次の方は、コレクション展・企画展ともに観覧無料
　1）児童、生徒（小・中学生、高校生など）
　2）学校教育、社会教育活動としての児童・生徒の引率者（観覧料免除申込書が必要です）
　3）各種手帳をお持ちの障がい者の方の観覧
　　（付き添いは手帳をお持ちの方1人につき1名まで無料）
・大学生と70歳以上の方は、コレクション展が観覧無料
（大学生の対象は、大学、大学院、短期大学、高等専門学校（4学年以上）、専修学校（専門課程）、専修学校（一般課程の19歳以上）、通信制大学、放送大学です）
・詳しくは富山県美術館ホームページでご確認いただくか、美術館へお問い合わせください。
・ご来館の際は、当館ホームページの「入館時のお願い」をご確認ください。

## アクセス

○富山駅北口（あいの風とやま鉄道改札側）から
　徒歩約15分／タクシー約3分
　バス：1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ
○富山空港より・・・・・・・タクシー：約20分（約9km）
○北陸自動車道より・・・自動車：約15分（富山I.C.から国道41号経由）





**富山県美術館（TAD）**
TAD:Toyama Prefectural Museum of Art and Design
※Toyama Art Design の頭文字をとり、TAD と略称しています。

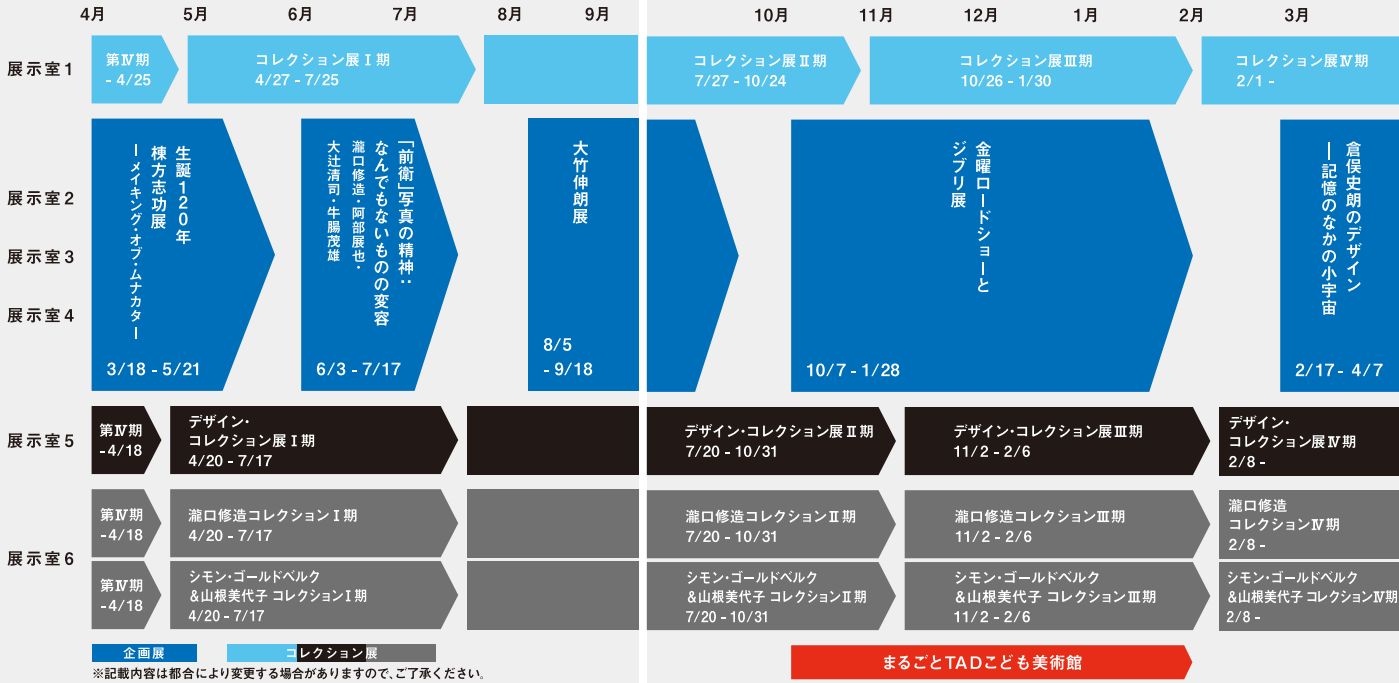
〒930-0806　富山県富山市木場町3-20（富岩運河環水公園内）
TEL：076-431-2711　FAX：076-431-2712　https://tad-toyama.jp/


# 2023→2024

Toyama Prefectural
Museum of Art & Design

# 富山県美術館（TAD）
# 展覧会スケジュール
# 2023.4 - 2024.3

# スケジュール




※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

# コレクション展

## 2階　展示室1

約3か月に1度の展示替えで、自慢のコレクションを多彩に展示。常に新鮮な出会いが楽しめます。

## 3階　展示室5
### デザイン・コレクション

ポスターと椅子を中心としたデザインコレクション。国内外のすぐれたポスターとともに、デザイン史に残る名作椅子が並びます。ポスターは、タッチパネルで好きな作品を大きく表示できる大型ディスプレイでも自由に楽しめます。

## 3階　展示室6
### 瀧口修造コレクション
### シモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクション

富山県出身の詩人・美術評論家の瀧口修造と、世界的な音楽家シモン・ゴールドベルク＆山根美代子のコレクション。瀧口の部屋には、ミロやデュシャンなど親交を結んだ作家たちから贈られた作品などが並びます。また、富山を愛し晩年を過ごした天才ヴァイオリニスト、ゴールドベルクが生前に集めた20世紀の優品を展示します。

撮影：大辻清司《書斎の瀧口修造夫妻》1975年

ヘリット・トマス・リートフェルト（製造1990年代）《レッド・アンド・ブルー》1918-23年

ジョアン・ミロ《パイプを吸う男》1925年
©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2023 G3115

パブロ・ピカソ《肘かけ椅子の女》1923年
ⓒ2023 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

※記載内容は都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

富山県美術館開館5周年記念

## 生誕120年 棟方志功展 メイキング・オブ・ムナカタ

**2023年3月18日(土) - 5月21日(日)**

一　般(団体):￥1,500(￥1,200)
大学生(団体):￥1,000(￥800)
※( )内は20名以上の団体料金

「世界のムナカタ」として国際的な評価を得た版画家・棟方志功(1903-1975)。一心不乱に板木に向かう棟方の姿は、多くの人々の記憶に刻み込まれています。棟方が居住し、あるいは創作の拠点とした青森、東京、富山の三つの地域は、それぞれに芸術家としての棟方の形成に大きな影響を与えました。棟方の生誕120年を記念し、各地域の美術館(当館、青森県立美術館、東京国立近代美術館)が協力して開催する本展では、棟方と各地域の関わりを軸に、板画、倭画、油彩画といった様々な領域を横断しながら、本の装丁や挿絵、包装紙などのデザイン、映画・テレビ・ラジオ出演にいたるまで、時代特有の「メディア」を縦横無尽に駆け抜けた棟方の多岐にわたる活動を紹介し、棟方志功とはいかなる芸術家であったのかを再考します。

《飛神の柵》1968年 棟方志功記念館蔵

富山新聞創刊100年記念

## 「前衛」写真の精神: なんでもないものの変容

**— 瀧口修造・阿部展也(のぶや)・大辻清司(おおつじ)・牛腸茂雄(ごちょう)**

**2023年6月3日(土) - 7月17日(月・祝)**
前期:6月3日(土) - 6月27日(火) / 後期:6月29日(木) - 7月17日(月・祝)

一　　般:￥900(￥700)
大　学　生:￥450(￥350)
一般前売り:￥700
※( )内は20名以上の団体料金

４人の作家の交流と制作を辿りつつ、1930年代から80年代にわたる昭和写真史の一断片をご紹介します。
1938年に「前衛写真協会」が結成され、中心人物だった瀧口は、超現実主義とは「日常現実の深い襞(ひだ)のかげに秘(ひそ)んでいる美を見出すこと」であると主張しました。瀧口と一緒に協会を立ち上げた阿部は、瀧口に共鳴しオブジェや風景の写真を発表しました。２人の影響を強く受けた大辻は、「なんでもない写真」と題したシリーズを手掛けます。大辻の愛弟子・牛腸は、技巧に凝らず日常を誇張なしに撮影した「コンポラ写真」の代表的な一人として注目されました。この４人の作品や資料、ウジェーヌ・アジェ、マン・レイなど関連作家の作品を通して、瀧口の思想を受け継がれた前衛写真の精神とその魅力をぜひご堪能ください。

牛腸茂雄《SELF AND OTHERS》1977年　新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵(前期のみ展示)

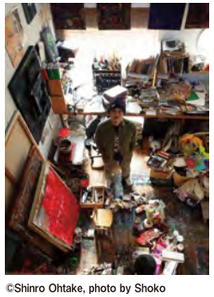
## 大竹伸朗展

**2023年8月5日(土) - 9月18日(月・祝)**

一　　般:￥900(￥700)
大　学　生:￥450(￥350)
一般前売り:￥700
※( )内は20名以上の団体料金

大竹伸朗(おおたけしんろう)(1955ー)は、1980年代初めに華々しくデビューして以来、絵画、版画、素描、彫刻、映像、絵本、音、エッセイ、インスタレーション、巨大な建造物に至るまで、猛々しい創作意欲でおびただしい数の仕事を手掛け、トップランナーであり続けてきました。近年ではドクメンタ(2012・ドイツ)とヴェネチア・ビエンナーレ(2013・イタリア)の二大国際展に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも評価を得ています。
2006年に開催された「全景 1955ー2006」以来の大規模な回顧展となる本展では、国際展に出品した作品を含むおよそ500点を7つのテーマに基づいて構成します。作者が「既にそこにあるもの」と呼ぶテーマのもとに半世紀近く持続してきた制作の軌跡を辿るとともに、時代順にこだわることなく作品世界に没入できる展示によって、走り続ける強烈な個性の脳内をめぐるような機会となるでしょう。

《残景 0》2022年　Photo: 岡野圭



©Shinro Ohtake, photo by Shoko

## 金曜ロードショーとジブリ展

**2023年10月7日(土) - 2024年1月28日(日)**

料金未定
※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

スタジオジブリは、1985年の設立以来、高畑勲監督や宮崎駿監督の作品を中心に、数々の名作アニメーションを世に送り出してきました。その作品が広く親しまれ、国民的アニメーションと呼ばれるようになった背景には、日本テレビの長寿番組「金曜ロードショー」の存在があります。1986年には「風の谷のナウシカ」も初めて同番組で放映され、以降、多くの作品が繰り返しお茶の間に届けられました。同じ時間に、日本中でたくさんの人が観る、特別な体験――本展では、「風の谷のナウシカ」をはじめ、「となりのトトロ」「かぐや姫の物語」「千と千尋の神隠し」「思い出のマーニー」など、スタジオジブリ作品の魅力を、「金曜ロードショー」で放映された時代の記憶とともにご紹介します。会場では、これまで語られなかったジブリ作品放映の秘密が明かされるほか、作品の世界に飛び込めるような、さまざまな空間が登場します。

同時開催:[まるごとTADこども美術館]
下記展覧会をはじめ、こどもも楽しめるプログラムを開催します。

START☆2023
富山県内の小・中・高等学校などの作品を紹介します。
会期:2023年12月9日(土) ー 2024年1月28日(日)
会場:TADギャラリー　観覧無料

©1997 Studio Ghibli

## 倉俣史朗のデザイン ー記憶のなかの小宇宙

**2024年2月17日(土) - 4月7日(日)**

料金未定
※決定次第、当館ホームページにてお知らせします。

倉俣史朗(1934ー1991)は、1960年代半ばから1991年に56才で亡くなるまで、家具・照明・インテリアを中心としたデザインの領域で世界的に注目を集めたデザイナーです。従来の家具やインテリアの領域ではほとんど用いられなかったガラスや建材用のアルミ、そして形を持たない光などに託して、自身の記憶や想像から浮かび上がるイメージを、独自のデザインとして展開していきました。多くは自主制作的に始まった家具や照明はもとより、商業的な依頼においても独自のデザインを探り続け、時に時代へのアイロニーも込めたその作品と思考は、没後30年以上を経た今なお国内外の人々の心を惹きつけています。
今回の展覧会では、自身の事務所を構える前後の初期の仕事から、造花のバラをアクリルに封じ込めた椅子《ミス・ブランチ》(1988年デザイン、当館所蔵)などの代表作とともに、イメージスケッチ、映像、本人が遺したことばを織り交ぜ、作品だけではなく、デザイナー倉俣史朗自身の内面とその思考の背景にもまなざしを向けていきます。

倉俣史朗《ミス・ブランチ》(1988年)富山県美術館蔵　©Kuramata Design Office

令和 5 年 3 月 24 日

# 令和 4 年度取得美術品について

富山県美術館

令和 4 年度は、美術品の購入と受贈により作品を取得しました。これらの作品は、コレクション展や、当館で開催する各種企画展で活用してまいります。

## １．美術品の購入

| No. | 作家名 | 生没年 | 作品名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 五島（ごとう） 健三（けんぞ） | 1886-1946 | 板絵・スケッチ一式<br>（板絵 1 点、スケッチ 10 点） |
| 2 | 杉戸（すぎと） 洋（ひろし） | 1970- | the pedals |
| 3 | 関根（せきね） 直子（なおこ） | 1977- | Mirror Drawing - Inner Color |
| 4 | 田村（たむら） 友一郎（ゆういちろう） | 1977- | 十戒 |
| 5 | 蜷川（にながわ） 実花（みか） | 1972- | 花、瞬く光 |
| 6 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 計 | | | ６件 |

上記、No.２～６は、富山県内在住の個人の方からのご寄附を活用し作品購入しました。寄附者のご意向を踏まえて、日本の若手・中堅作家（30 代～50 代）の作品から選出しています。

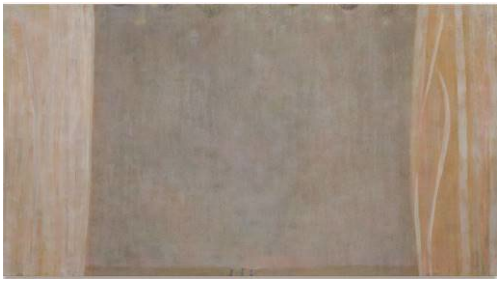
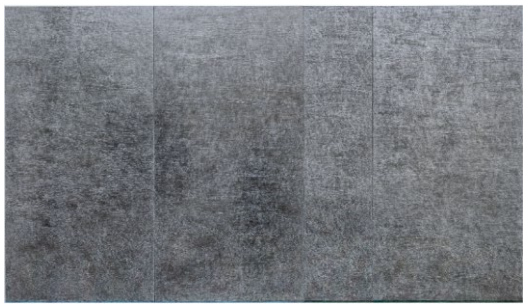
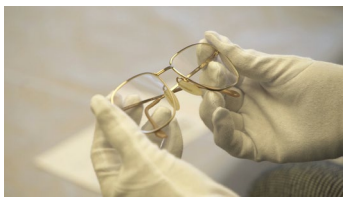
## ２．美術品の受贈

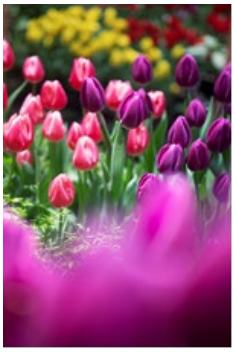
| | 作家名 | 生年 | 作品名 | 寄附者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 木下（きのした） 晋（すすむ） | 1947- | ある運命 | 瀧花 喜代司氏 |
| 2 | 〃 | 〃 | √３＝ナルシス | 〃 |
| 3 | 〃 | 〃 | 102 年の闘争Ⅲ | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 103 年の闘争Ⅱ | 〃 |
| 5 | 杉戸（すぎと） 洋（ひろし） | 1970- | thunder bird | 杉戸 洋氏 |
| 6 | 田村（たむら） 友一郎（ゆういちろう） | 1977- | 瀧壺 | 田村 友一郎氏 |
| 7 | 蜷川（にながわ） 実花（みか） | 1972- | Self-image | 蜷川 実花氏 |
| 計 | | | | ７件 |

※作家名 50 音順。※各作品の詳細は、別紙のとおり

（別紙）

１．購入

| | | |
|---|---|---|
| 1 | | **五島 健三**<br><br>**板絵・スケッチ一式**<br>（板絵 1 点、スケッチ 10 点）<br><br>＊収蔵作家 |
| 2 |  | **杉戸 洋**<br><br>**《the pedals》　2014 年**<br><br>絵画<br>サイズ：H200.7 ㎝×W365.8 ㎝<br>材質・技法：キャンバス・アクリル絵具、顔料<br><br>＊当館 2018（H30 年）「三沢厚彦展」招待作家 |
| 3 |  | **関根 直子**<br><br>**《Mirror Drawing-Inner Color》**<br>**2022 年**<br><br>絵画<br>サイズ：H182.4 ㎝×W315.9 ㎝<br>材質・技法：パネル・鉛筆、ガッシュ<br><br>＊当館(近代美術館)2009（H21）年グループ展招待作家 |
| 4 |  | **田村 友一郎**<br><br>**《十戒》　2019 年**<br><br>ミクストメディア<br>（映像「十戒 」(12 分 59 秒，カラー，HD)、映像「ハラダのメガネ 」(5 分 26 秒，カラー，HD)、写真 12 点を収めた額 2 枚（各 65×116.5cm)、台本）<br><br>＊当館 2019（H31）年グループ展招待・出品作品 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 |  | **蜷川 実花**<br><br>**《花、瞬く光》　2021 年**<br><br>写真<br>サイズ：H145.6 cm×W97 cm<br>材質・技法：フォトアクリル・C プリント<br><br>＊当館 2022（R4）年企画展開催・出品作品 |
| 6 | | **蜷川 実花**<br><br>**《花、瞬く光》　2021 年**<br><br>写真<br>サイズ：H145.6 cm×W97 cm<br>材質・技法：フォトアクリル・C プリント<br><br>＊当館 2022（R4）年企画展開催・出品作品 |

・五島健三（ごとう けんぞ・1886 富山県生まれ～1946）は、東京美術学校西洋画科を卒業後、第 1 回文部省美術展覧会（文展）に富山県で初めて入選するなど、富山県の近代洋画史を語る上で欠かせない画家である。当館では初期の油彩 2 点をすでに所蔵しているが、経歴など不明なことも多く、現存する作品は少なく資料も貴重である。今回は、板絵、スケッチ類を購入することで、油絵制作過程をたどることができ、近代洋画の調査に役立てることができる。

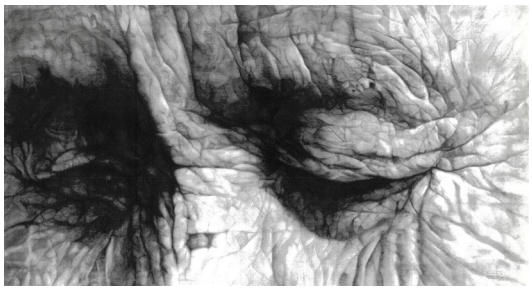
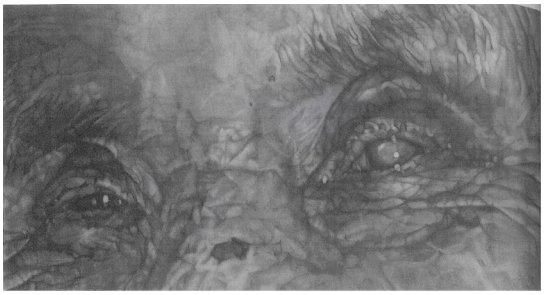
・杉戸洋（すぎと ひろし・1970 年愛知県生まれ）の《the pedals》は、杉戸の初期絵画作品のモチーフの舞台とカーテンをイメージさせる空間に、題名にもあるピアノのペダルが小さく描かれている。シンプルな要素を繊細な色彩で満たした杉戸の特徴が際立った作品である。

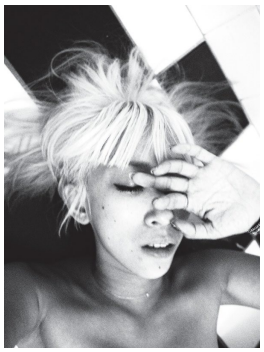
・関根直子（せきね なおこ・1977 年東京都生まれ）の《Mirror Drawing-Inner Color》は、白く平坦な紙に彩色し、その上に鉛筆で線を幾重にも描き、そのストロークの蓄積によって画面が鏡面のように輝いている。没入感を感じさせる画面からは、絵画の可能性を探求する画家の姿勢がみられる。

・田村友一郎（たむら ゆういちろう・1977 年富山県生まれ）の《十戒》は、2019 年に当館で開催した「わたしはどこにいる？道標をめぐるアートとデザイン」展の出品作である。当館のシモン・ゴールドベルク＆山根美代子コレクションから主題を得て、そのコレクションのリサーチを作品化するとともに、派生した創作落語も作品の要素としている。現実と虚構の入り混じった世界を、映像やオブジェの組み合わせ（インスタレーション）で表現している。

・蜷川実花（にながわ みか・1972 年東京都生まれ）の《花、瞬く光》（2 点とも同じ題名）は、2022 年に開催した「富山県美術館開館 5 周年記念 蜷川実花展」の出品作である。砺波市のチューリップ四季彩館で撮影したチューリップや、栃木県で撮影した藤の花は、鮮やかな色彩と独特な構図が特徴的であり、2021 年のコロナ禍であった時期の作品だからこそ、一瞬のきらめきや生命力を強く感じさせる。

## ２．美術品の受贈

| | | |
|---|---|---|
| 1 | | **木下晋**<br><br>**《ある運命》　1967 年**<br><br>絵画<br>材質・技法：キャンバス・油絵具<br>サイズ：H130.0×W190.0cm<br><br>＊収蔵作家<br>＊当館(近代美術館)2001（H13）年グループ展招待 |
| 2 | | **木下晋**<br><br>**《√３＝ナルシス》　1969 年**<br><br>絵画<br>材質・技法：キャンバス・油絵具<br>サイズ：H194.0×W130.0cm |
| 3 |  | **木下晋**<br><br>**《102 年の闘争Ⅲ》　2002 年**<br><br>絵画<br>材質・技法：ケント紙・鉛筆<br>サイズ：H100.0×W190.0cm |
| 4 |  | **木下晋**<br><br>**《103 年の闘争Ⅱ》　2003 年**<br><br>絵画<br>材質・技法：ケント紙・鉛筆<br>サイズ：H100.0×W190.0cm |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | | **杉戸 洋**<br>**《thunder bird》　2018 年**<br><br>絵画<br>サイズ：H24.5×WH33.4 cm<br>材質・技法：キャンバス・油絵具、グリッター<br><br>＊当館 2018（H30 年）「三沢厚彦展」出品作 |
| 6 | | **田村 友一郎《瀧壺》　2022 年**<br><br>立体<br>サイズ：H18.8×W13.9×5.0 cm<br>材質：ブロンズ<br><br>＊当館(近代美術館)2016（H28）年グループ展出品のインスタレーションの一部の再構成 |
| 7 |  | **蜷川 実花《Self-image》　2013 年**<br><br>写真<br>サイズ：H200.0×W133.0 cm<br>材質・技法：紙・C プリント<br><br>＊当館 2022（R4）年企画展開催・出品作品 |

・木下晋（きのした すすむ・1947 年富山県生まれ）の《ある運命》と《√３＝ナルシス》は、画業 50 年以上にもわたる作家の初期の油彩作品で、サイズも大きく、見所のある作品である。《102 年の闘争Ⅲ》と《103 年の闘争Ⅱ》は、木下の代表作である、鉛筆で 瞽女（ごぜ） の小林ハル氏をモデルにし、目の部分をクローズアップして描いたシリーズである。

・杉戸洋（すぎと ひろし・1970 年愛知県生まれ）の《thunder bird》は、2018 年の「三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA」展にて、コラボレーションの一環として制作・展示された作品である。立山町にあるコンビニエンスストアの「立山サンダーバード」を主題とした、富山県ゆかりの作品である。

・田村友一郎（たむら ゆういちろう・1977 年富山県生まれ）の《瀧壺》は、2016 年、富山県立近代美術館が閉館するときの最後の企画展「MOVING！ミュージアムが「動く」」の出品作の再構成である。田村が高校生の頃熱中した藤子不二雄Ⓐ氏の自伝的漫画『まんが道』の書籍本体を鋳造した作品。書籍の中の青春群像と自分の未来を重ねるかのように作品化したものである。

・蜷川実花（にながわ みか・1972 年東京都生まれ）の《Self-image》は、2022 年に開催した「富山県美術館開館 5 周年記念 蜷川実花展」の出品作である。希少性の極めて高い大型のプリントであり、購入作品の色鮮やかさと対照的なモノクロ写真で、憂いや悲しみの感情がみてとれる蜷川のポートレイトである。